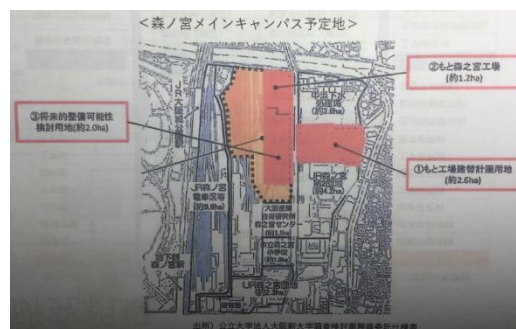


森之宮「新大学キャンパス予定地」

大阪市立大と府立大が2022年に統合し、森之宮に「メインキャンパス」が整備され2025年に開所されるという。どんな所か気になっていた。コロナ・ショックで図書館も休館であり、現地を訪ねることにした。地下鉄「森ノ宮駅」で降り、写真の「公立大学法人大阪新大学調査検討業務等委託仕様書」の地図を見ながら現地に向かった。

市立森之宮小学校、大阪産業技術研究所森之宮センターの向こうに、広い敷地の大阪メトロ検車場が見えてきた。道路を隔てて、中浜下水処理場がある。案内板によると、道路沿いに沈殿池があり、その奥には多くの処理施設が並ぶ。第二寝屋川と平野川沿いに、下水処理施設が連なっている。処理場では、電源設備工事が行われていた。



新大学キャンパス予定地は、中浜下水処理場の手前に広がる「もと工場建替計画用地」であり、約2.6haの広さという。囲いに覆われて道路からは見えないので、手前にあるUR森之宮第2団地に上がらせてもらう。

この団地は横に長い団地で、歴史を感じさせる建物だった。この周辺には、URの大きな団地がいくつもある。大阪環状線から見たことはあるが、近くを歩くのは初めてだ。団地の上から眺めると、下水処理場の前に広がる空き地がよく見えた。



自宅に戻ってからネットで調べてみると、「再都市化」というサイトに大阪城の方から撮ったと思われる写真が掲載されていた。ちょうど真ん中に、キャンパス予定地の空き地が見える。その右の細長い建物が写真を撮らせてもらったUR団地である。



このサイトによると、将来的に現交通局(大阪メトロ)検車場 8.2

万㎡の土地の再開発を検討しており、合計10万㎡を超える都心型キャンパスが整備されるという。「大学改革」という名のもとに、都心に近い森之宮地区の大規模な再開発が実施されることになりそうだ。現地を歩いて、疑問とともに怒りが湧いてきた。

(2020年3月8日)